

「うき 戦争の記憶 ～三角・戸馳島の陸軍暁船舶部隊の傷跡と記憶～」

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 高谷 和生

1 はじめに

- 戦後世代としての「私の視点」 ～近現代考古学との出会い、平和活動へ～
- 熊本県内「戦争の記録」を、高谷拙書・熊日出版『くまもとの戦争遺産』として出版
- 戦争遺跡保存全国ネットワーク 全国運営委員、空襲・戦跡九州ネットワーク 事務局長、平和憲法を活かす熊本県民の会 代表幹事、(一社)くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会 理事として活動
- 熊本県内戦争遺産の調査・研究活動と啓発活動は、両輪の活動で、その活動そのものが「未来への継承」である。戦後世代である高谷の「平和継承の活動」である。
- 戦争遺跡は、「歴史の遺産」で、忘れてはならない「歴史事実の厳粛なる遺構」であり、「モニュメント」である。
- さらに、地域が戦争で失った貴重な人命、地域の自然や文化、そして地域が戦災のあと復興し生きてきた歴史を考えるうえからも、戦争遺跡の調査研究・保存活用は重要である。



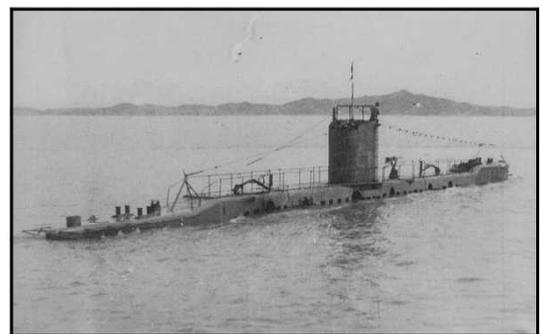
令和6年6月25日
不知火美術館での
「うき 戦争の記憶」展
オープニングでの
高谷講演の様子

2 三角の戦争遺跡を知る！！

※過日調査内容を、拙書『くまもとの戦争遺産』に記述し、誤字等を修正

(1) 陸軍船舶暁部隊とは

- 陸軍船舶部隊「暁部隊」。本部隊は、陸軍が国外で軍事作戦を行う上で必要とする兵員、兵器、弾薬、食糧など必要な軍需物資等を海上輸送する部隊である。
- 昭和19年10月から海上輸送や軍需物資の管理等をつかさどる「第十五船舶団（本部は広島宇品・昭和20年3月30日編成）の船舶工兵聯隊の三角分遣隊」司令部が、三角町際崎（きわさき）旧蚕糸館跡に本部を設置したとされる。本隊は、陸軍予備役であった「林少佐」指揮下の陸軍船舶部隊である。※「第二節 戦争と三角」『三角町史』1987年
- 軍艦色に塗られた遠洋漁業用100トンの徴用漁船が中心で、物資運搬の通称「ダンベ船」も配置されたとされる。三角町周辺及び大矢野地区には陸軍関係の多くの物資が集積されており、今でも多数の壕が現存する。
- 第十五船舶団の聯隊の三角分遣隊は、奄美・沖縄・南西諸島等への人員・物資・資材運搬をその業務とされるが、敗戦間際に天草に配備された通称「天草兵団」「独立混成二百十六旅団」への物資補給も担当したとされる。
- 三角周辺には、長崎県南島原市口之津港に派遣された陸軍マルユ艇部隊である「第二潜航輸送隊口之津派遣隊」による南西諸島への物資補給を実施されており、「マルユ ゆ十二号艇」への三角港での米軍機からの銃撃記録も残されている。
※過日、長崎県雲仙市国見町植木和憲氏「島原半島の戦争遺跡」調査概要より、抜粋
- 地元の「下石歯科医院」看板の裏面には、「暁第四二二三五部隊本部」銘が墨書される。



□左：裏面に部隊銘を記された「下石歯科医院」看板 □中：本部舎と「暁第四二二三五部隊本部」銘看板 □右：陸軍潜水艦「マルユ艇」 著作権フリー素材より

(2) 戸馳島野崎 (のざき) の弾薬格納壕

- 本壕は、三角港を対岸とする野崎の「旧製氷工場」に隣接した壕となる。
- 地元証言では「陸軍弾薬壕」である。壕入口は2箇所、その間隔は25.1m。1号入口前には爆風除けのコンクリート障壁(高170cm、横残存200cm、厚30cm)が建った状態で現存し、2号入口前にも同様のコンクリート爆風除け障壁が前面に倒れ込む。さらに塹前には、切石で二段の石垣を組み、丁寧にコンクリート製床通路部を造作している。
- 内部平面は「井桁・ハシゴ」状で、二本の「縦坑(奥行き30.6m、最大で横幅2.2m、高さ2.6m)」に対し、直行する横方向に四本の「格納部」及び二本の縦坑を連結する「通路部」が連結している。
- 格納部は断面蒲針形で「全長5.5~6.7m、横幅2.3m、高さ2.8m」、通路部は同形で「横2.2m、高さ2.0m」の規模である。本壕証言では未完成とされるが、現状で完成形と見ることができる。また、「弾薬はまだ格納されず」敗戦をむかえたという。



□左：格納壕1号入口前設置の爆風よけコンクリート障壁 □中：弾薬格納壕内部 □右：内部から見た2号壕入口

(3) 三角町涼松 (すずみまつ) の兵員壕、前越 (まえごし) の格納壕

- 三角町涼松丘陵東側に4箇所、西側に3箇所の入口が現在も開口する兵員壕
- 陸軍が地元の青年学校・国民学校高等科の生徒等も徴用しながら掘削したもので、内部は蒲針形の素ぼりで横幅3.0m、高さ2.8mを測る。これらの壕内部は、迷路状に通路及び兵員待機室が配されており、先端は崩落しており全長約25mを測る。
- 新地前越地区にも爆風除け「L型土塁」を有する「格納壕3基」が、良好な状態で現存するが、入口部崩落のため内部への入室は行っていない。



□左：涼松の兵員壕内部で最大部 □中：兵員壕の入口と屈曲部
□右：新地前越地区の格納壕前の「L型土塁」状況

(4) 三角町黒崎 (くろさき) の補給品格納壕

- 黒崎地区国道添い「みなと醤油醸造元」本社前の国道を隔てた対側の補給品格納壕である。



□左：黒崎の補給品格納壕の入口。方形扉部の構造 □中：壕内部の様子 □右：崩落した対面側の崩落入口

□戦後暫くまでは、入口に木製の大型両開き扉が設置されていたが、今は方形断面の痕跡を残すのみ。入口は2箇所設けられ、最深部でコ字型で連結している。入口部は断面矩形で横3.0m、高さ2.5m、内部は断面蒲鉾型で横2.6m、高さ2.8mを測る。奥行き約40mで横方向に約32m延びる。収容されていた補給品は、軍隊被服、食糧の乾パンや牛缶、砂糖等である。

3 4月24日の現地調査

(1) 弾薬格納壕と周辺部の調査

- 現有道路付近から、崖面を削り、広場・作業空間を設ける形で横幅約70m、奥行30mを知行・地形している。
- 1号壕の入口前にあった爆風除けのコンクリート障壁は、土砂崩落で倒壊しており、切石二段石垣組みの入口部は埋没する。2号壕前コンクリート製爆風除け障壁は、草木繁茂のため確認できない。
- 崩壊した爆風除けのコンクリート障壁は、破断面から内部配筋には「竹がそのママ」使用されている状況が、節目・丸痕跡等から見てとれた。
- コンクリート製床通路部は、全長250cm×横120cm×22cm厚である。
- 壕内部でのキノコ類栽培は廃絶され、資材は一部がそのまま残されている。また、内部には崩落も無く、安定している
- 最深部の造作状況では、形状は完結しており、堀かけで中断した状態では無い。



□上段左：弾薬壕前の作業場知行の様子

□上段右：1号壕内部から見た対岸三角の様子

□中段左：1号壕の最深部の様子

□中段右：1号壕の格納部の様子

□下段左：1号壕前の障壁崩落の状況

□下段右：コンクリート製障壁内部の「竹による配筋」状況

(2) 大型貯水槽

- 除草作業で、これまで不鮮明であった壕前空間・作業場で「大型貯水槽」が確認できた。
- 全長6.4m×横幅2.3mで、縁部より2.3mの深度を持つ。安山岩切石を五段程度組み、角部にはアールを付けて円弧状を呈する。当初からの配管が2箇所確認される。ただし、上段には近年でのブロック等での補修痕跡等がある。
- 真水を貯水するための大型貯水槽であると想定できるが、時期・詳細用途は不明である。
- また、隣接地に「井戸（内径8.1m、深度3.1m、内部は頁岩等の切石組み）」が確認できるが、関連性は不明である。



□左：貯水槽の全景 □右：切石組み槽壁面に設置された配管状態

(2) 旧水製造工場・造船施設

- 弾薬格納壕に隣接する施設として「旧水製造工場」と「造船施設」が存在する。
- 旧水製造工場は、鉾津煉瓦イギリス積み、外壁モルタル塗布の大型建屋である。
- 造船施設は、海岸部に造られた安山岩切石四段組み「乾式ドック」である。これは船体の検査や修理などのために水を抜くことができるドックのことで、dry dock(ドライドック)、船渠(せんきょ)、乾船渠(かんせんきょ)ともいう。



□左：旧水工場の内部 □中：旧水工場の窓部造作 □右：造船施設の乾式ドック

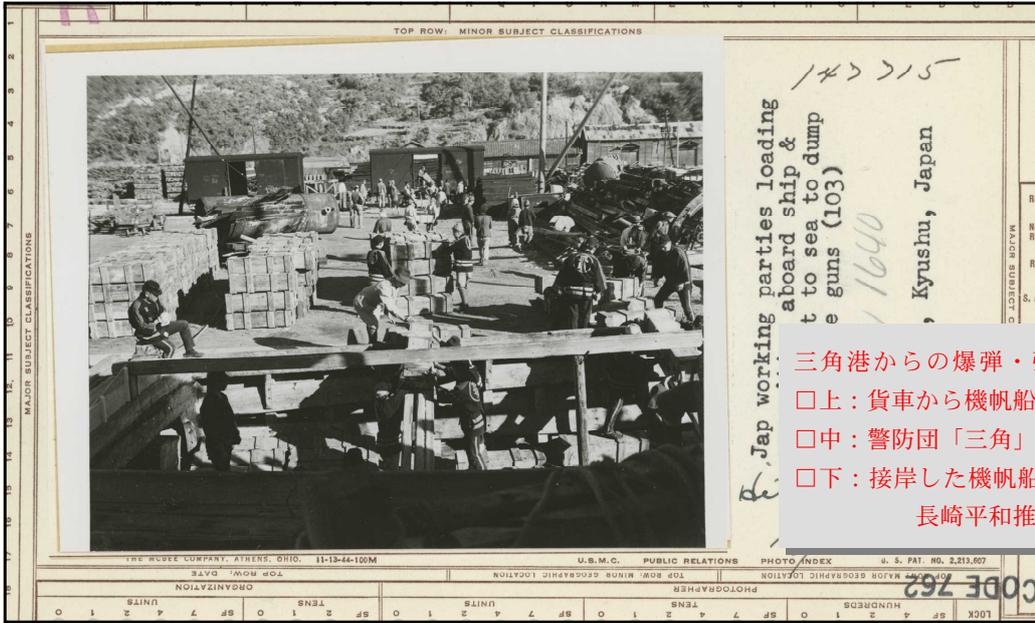
4 まとめ

- 戸馳出身の県被団協二世部会共同代表原田俊二さんのご助力で、2009年に確認できた「弾薬格納壕と周辺部」を改めて調査ができた。壕入口部は、崖面崩落で土砂堆積等もあり狭小となり、障壁の崩壊も見られたが、内部状況は良好であった。また、新たに大型貯水槽と井戸等も確認できた事から、全国同性格陸軍施設での関連性する資料調査が必要である。
- 一方、隣接部等には「旧水製造工場（工場建屋・井戸・水槽）」と「造船施設（乾式ドック・水門等）」も所在しており、暁部隊施設と併存していた事も想定でき、現地での全容把握、地元誌等での来歴・概要等の確認が必要である。
- 熊本県内で陸軍暁船舶部隊が配備され当時施設が残されているのは、本字城市のみである。地元教育委員会で、遺跡所在状況の確認、地域証言の収集が必要と考える。
- なお、アジア歴史資料センター内文書に「第一五船舶団 船舶工兵第四〇連隊」配備先に「柳井」港の記銘が見られる。



連絡先

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表
一社 くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会 幹事 高谷 和生
Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp
個人携帯 090-1513-5528
HP URL <https://www.kumamoto-senseki.net/>



三角港からの爆弾・弾薬等の海上投棄

□上：貨車から機帆船への運搬

□中：警防団「三角」の半纏

□下：接岸した機帆船への積込

長崎平和推進協会提供

